

# 実験で経済学を学ぶ

～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI

主に高校生を対象として、2017年8月5日（土）と6日（日）の2日間、金沢大学人間社会研究域経済学類において「実験で経済学を学ぶ」を開催した。これは、日本学術振興会の支援を受けた「ひらめき☆ときめきサイエンス」の事業である。この事業は、「ようこそ大学の研究室へ」の副題にある通り、小学校高学年以上から高校生を対象として、大学の研究をわかりやすく紹介するものである。

参加者の内訳は、中学生が1人、高校1年生が16人、高校2年生が16人、高校3年生が11人の合計44人（図1）、その他保護者などの見学者4人を含めた参加者は、48名であった。加えて、実験補助のために大学生4人も参加した。



写真：実験前の説明をする小田先生

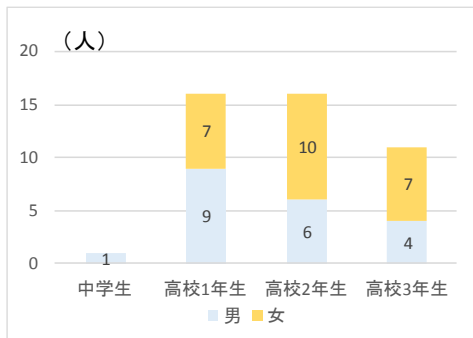


図1：参加者の内訳

講義を担当したのは、主催者の金沢大学の藤澤美恵子（教授）と協力者の京都産業大学の小田宗兵衛（教授）・東海大学の林良平（講師）である。大学でおこなわれている実験経済学や行動経済学の講義の内容を、高校生にわかりやすい構成にした。まずは、実際に実験をおこない体験してもらい、理論と現実の一致する点や差について解釈した。

実験は、口頭で交渉するオーラルビットマーケット実験・囚人のジレンマ実験とスマホを利用した共有地の悲劇実験等をおこなった。その上で、市場理論やゲーム理論などの講義がおこなわれた。

終了時に、参加した中高校生にアンケートして、本講座への評価などを尋ねた。講座内容への評価は、非常に高く「とてもおもしろかった」が80%であり、否定的な評価は皆無であった。講座の分かりやすさも同様で、わかりやすいと100%の評価を受けている。さらに、参加して科学に興味をわいたかの質問についても100%が、興味をわいたと回答している。将来研究をしてみたいかの質問には、8割以上が肯定的な回答をしているものの、研究志向でない高校生もいる（図2）。

自由欄には、「経済学を勘違いしていた」との感想もあり、今回の体験が、社会科学としての経済学を理解するきっかけになったと思われる。同時に、「大学の進路を経済学部にした」との記述もあり、高校生の知的好奇心を十分刺激できた講座であったと考える。

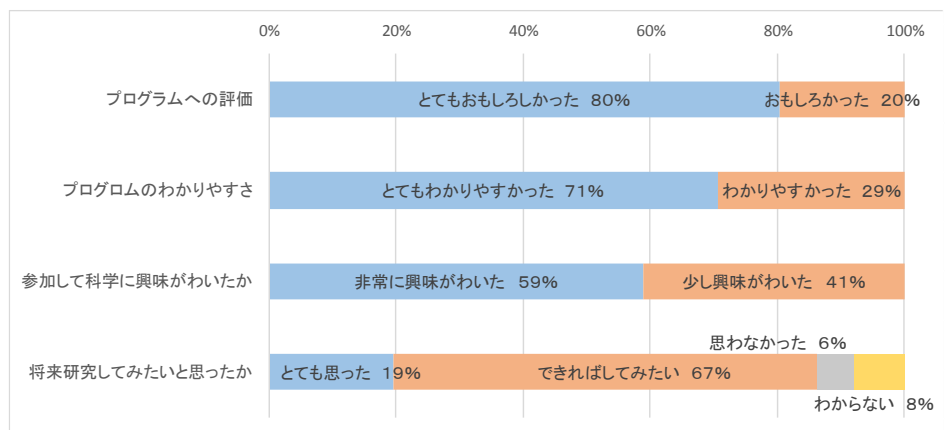


図2：参加中高生のプログラム評価